



はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和8(2026)年8月27日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



このたびの熊本地震と千葉豪雨により、お亡くなりになられた方に哀悼の意を申しあげます。
また、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。突然の災害により多大なご苦労とご不安の中でお過ごしのことと存じます。被災地の日も早い復旧・復興と、皆様の安全、健康を心よりお祈り申し上げます。

一人一人の努力、みんなの協力、そして笑顔で 充実の2学期を！

充実した夏休みを過ごし、一回り大きくなった子どもたちが学校に戻ってきました。大きな事故もなく2学期を迎えられたこと、何よりもうれしく思います。これも、保護者・地域の皆様方の温かい見守りとご指導のお陰と感謝申し上げます。

始業式では、1学期の終業式で話した3つの宿題について振り返り、まずは「命を守る」ことができたことを誉めました。そして、「自分のことは自分です」という自立の姿をこれからも続けていくことや何かに挑戦した勇気と努力を自信とし、2学期も存分に力を発揮してほしいと話しました。やるべきことを自ら考え、そして考えるだけでなくそれを実行していく力と「自立・自律」の力をますます高めることを期待しています。

子どもたちがどんな夏休みを過ごし、自分がどのように成長したかを聞くのがとても楽しみです。夏休みを振り返り、成長し、たくましくなった自分に気づき、2学期のめあてを明確にしてスタートします。学校としては、学力テストの結果や教職員による学校評価を踏まえて、これからも『チーム新舞鶴』で、一人一人の力をさらに高めていけるよう力を尽くす所存です。同時にいじめの未然防止や早期解決に向けても組織的な取組を継続し、居心地のよい学校づくりに努めてまいります。

2学期は、運動会をはじめ、音楽会や持久走記録会など子どもたちの成長を感じていただく行事や取組がたくさんあります。まずは、残暑が厳しい中ですが、運動会に向けての取組が始まっていきます。あわただしい毎日が続きますが、何より子どもたちの健康と安全を大切に取り組んでまいります。そんな忙しい毎日を乗り切っていくためには、日々の「早寝・早起き・朝ごはん」という規則正しい生活習慣が大切です。できるだけ早く夏休みモードから通常学校モードに戻し、暑さや忙しさに負けない体づくりを行ってほしいと思います。学期初めの「リズムある生活(生活点検)」の取組も上手に活用しながら、健康面・体力面の充実のため、ご家庭のご支援もよろしくお願いいたします。

今学期も、子どもたちの心身の健康と安全を最優先にしながら、一人一人が自分のよさを最大限発揮できるよう教職員一同力を合わせ取り組んでいきます。引き続き、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同



サッカー日本代表の強さの秘訣

サッカーワールドカップがスペインの優勝で幕を閉じました。日本代表ももしかしたらと期待を抱かせる強さを見せましたが、世界の壁はまだ厚く、決勝トーナメント1回戦で惜しくもブラジルに敗れました。「世界一」という言葉をはばかることなく言えるぐらい強くなった日本代表ですが、強くなった要因がいくつか言われる中で、私が注目したのが、選手たちの「言語力」の高さについてです。確かに試合後のインタビューを受ける選手の話す内容を聞いていると、どの選手もしっかりと自分の考えを話す姿が印象に残っています。以前の日本人選手は、監督の指示を忠実に実行することや空気を読むこと、組織的に動くことは得意でしたが、自分の考えを積極的に主張する文化はあまりありませんでした。しかし欧州のトップリーグでは、自分の考えを監督に伝えること、チームメイトと戦術を議論すること、試合中に選手同士で話し合い、戦術を修正することが強く求められます。森保監督も、日本代表の成長の背景として、海外で経験を積んだ選手たちが主体的に意見を出し合えるようになったことや、選手同士のコミュニケーションの質の向上を挙げています。今の日本代表には、欧州のトップリーグで活躍する選手がたくさんいます。そういう選手たちは日常的に戦術の議論をしています。その結果、「監督の指示を待つチーム」から「選手同士で問題を発見し、解決できるチーム」へ変化してきたと言われています。

実はこれは今、教育に求められていることとよく似ています。授業では、「自分の考えを持つ」「他者に根拠を持って説明する」「対話によって考えを深める」というスタイルが重視されています。サッカーでも同じで、「何となくわかる」より「なぜそう考えるのかを言葉で説明できる」選手の方が戦術理解が深まり、チームとしても強くなるのです。

これからの社会では、知識を身に付けるだけでなく、友達や周りの人と協力しながら課題を解決したり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする力が求められています。そのため、授業では、一人で考える時間を大切にしながらも、友達との話し合いや意見交流を通して考えを深める活動を積極的に取り入れています。「対話的な学び」の目的は、単にたくさん発言することではありません。友達の考えに耳を傾け、「なるほど」「それは違う見方だな」と感じながら、自分の考えを見直したり広げたりすることにあります。異なる考え方に触れる経験は、子どもたちの思考力や判断力を育てるとともに、互いを認め合う心にもつながります。

新舞鶴っ子たちが、日本代表のように自分の考えを持ち、議論し合うことで、さらに“きずな”を深め、市内の小学校の“憧れ”の姿となれたら、この上ない幸せです。職員も子どもたちも高い理想を目指して共に頑張っていきます！！

